

きいて・めもして・こたえよう

あまみず じっけん
雨水のゆくえの 実験

なまえ
名前

きこくめあて じっけん てじゅん じぶん よそう わ
聞くめあて 実験の「手順」と、自分の「予想」を、分けてメモしましょう。

ことば てじゅん よそう すうじ
おとさない言葉：手順・予想・数字

ほうそうが お
放送が 終わったたら、開いて問題に答えましょう。

(1) この実験で、二つのバットの土は、どのようにちがえますか。

(2) 水は、どこからどこへ流れるはずだと言っていましたか。

(3) 実験の前には、何だと言っていましたか。○をつけましょう。
ア けっかをノートに書く

イ 予想を立てる

ウ かたづけをする

(4) この実験について、たしかめてみたいことを、一つ「しつものの文」で書きましょう。

すすめ方

- ① 中央の点線で山折りにして、「めも」の面だけを表にする（問題を先に見せない）。
- ② この放送文を先生が読む（または用意した音声流す）。読む回数：2回。聞きながらメモを取らせる。
- ③ 放送が終わったらプリントを開き、メモを見ながら問題に答えさせる。

放送文

今日の理科は、「雨水のゆくえ」を調べる実験をします。地面にふった雨水が、どのように流れて、どこへいくのかを、たしかめます。まず、実験のじゅんびと手順を説明します。

はじめに、二つのバットに、それぞれ土をしきます。一方のバットの土は、平らにします。もう一方は、かたむけておきます。そして、両方のバットに、じょうろで同じ量の水を、静かにかけます。

みなさんは、どうなると思いますか。実験の前に、予想を立ててみましょう。水は、高いところから低いところへ流れるはずです。だから、かたむけたバットのほうが、水が早く動くと予想できます。

実験の後には、けっかをノートに書きます。予想と同じだったか、ちがったかを、たしかめましょう。ちがっていても、だいじょうぶ。なぜそうなったのかを考えることが、いちばん大切です。

メモのれい

雨水のゆくえの実験

じゅんび：二つのバットに土／一方は平ら・一方はかたむける／同じ量の水

予想：水は高い→低いへ流れる／かたむけたほうが早く動く

実験の後：けっかを書く→予想とくらべる→なぜかを考える

こたえと かいせつ

(1) 一方は平らに、もう一方はかたむける

「一方のバットの土は、平らに…もう一方は、かたむけて」の部分です。

(2) 高いところから低いところへ

「水は、高いところから低いところへ流れるはずですよ」と言っていました。

(3) イ (予想を立てる)

「実験の前に、予想を立ててみましょう」と言っていました。けっかを書くのは実験の後です。

(4) (例) 水は、どれくらいの速さで流れますか。／土のかわりに、すなでもよいですか。

実験に関係する「たずねる文（～ですか。）」になっていれば正解です。